

「挑戦する心」

千川中学校長 紅床 直也

私立高校の入学試験が一段落し、来週22日(金)には都立高校の一般入学選抜が行われます。本校の3年生も自ら決定した目標に向かって挑んでいくことになります。本校のように比較的小規模の学校ですと、学年や教科担当の先生だけではなく、委員会活動や部活動等を通じて生徒全員の人となりを知っています。そこに本校の最大の強みがあります。主事さん方も含めて、全スタッフが心から応援しています。

さて、人はこの世に生を受けてから日々成長を続けます。生理学的に成長することが必然であって、身体的にも精神的にも、一定の年齢までは伸び続けることが、遺伝子に組み込まれています。中学生はまさにそのただ中であって最も伸び率の大きい時期となります。命あるものは全て成長し続ける存在なのです。

一方で挑戦し続けるためには、自らの強い意志と弛まぬ努力が必要となります。そうすることによって、例えば中途の目標にたどり着けなかったとしても、生きる力は格段に強固なものになり、その先のチャレンジに奏功する確率は格段に上がります。日々の挑戦が何物にも揺るがない、それでいて柔軟な心を作り上げます。

人間は社会的な動物ですから、物事の判断を自分の経験値に頼りがちになります。それは中学生でも成人していても同じ傾向があることは拭いようがありません。私自身は教員としては珍しく民間会社を経験しているので、新規採用された学校での前例踏襲の多さに、正直なじめませんでした。ただし、今の学校現場は、先月号でも触れたとおり、教育改革の方向性をしっかり捉えながらも、個々の特性を生かして、果敢に挑戦していかないと次代を担う人材育成からはほど遠いものとなります。

中学生が進路選択をする際、従来型のいわゆる「偏差値」のみで進学校を決定するとなると大変な間違いが起きます。学力は大切ですし、同レベルの生徒たちと学習面でも運動面でも切磋琢磨することは重要です。ただし、多くは3年たった卒業となるのです。その時の価値観(生きる上での物差し)を外部から与えられたものではなく、自分自身の中に根付かせておきたいものです。中学校はそのための耕しの場です。

教職を選んだからには、恩師とは言わないまでも、教え子にいい意味での影響を与えるモデルでありたいと思うものです。もしかしたら、反面教師だったのかもしれませんが、私のささやかな自慢は教え子の中に保・幼・小・中・高・大の教員が多いことです。そうした教え子からは他の先生方とは何かが違ったとよく言われます。

我々大人は次代を担う子どもたちに対して誇れる生き方を示すことができているのかどうか気になります。個々の職場の中で、そして家庭の中で。最近のニュースで自らの子どもを虐待死させてしまうような報道が増えています。そんなことは昔から良くあったけれど、最近は関心が高まって通報数が増えただけだと言う方もいらっしゃると思いますが、極端な結果を招いても、自分のしたことを躰の一貫だと主張する親は自分自身胸を張れる生き方ができていたのかとつい疑いたくなります。

自らの責任で、自身のキャリアを開拓していけばいいのです。他人を恨み他人のせいにするまではいかないものの、自ら限界を作った中でのキャリア選択をする大人を見ていて、子どもたちはどう思うでしょうか。一定限度、現実社会とも折り合っていないと社会人としては失格でしょうが、外部の価値に合わせるだけでは、あまりにも寂しい人生です。どうせ自分はここまでしか伸び代がないと思ってしまったら、そこで終わりです。

挑戦する心を持ち続けるということは生きる選択肢を増やすことにつながります。与えられた進路に満足するのでは無く、選べるということの幸せに感謝しつつ、どこでも自分らしく新しい価値観を作り上げていくべきだと思っています。これは、大人も子どもも同じです。子どもの中にも果敢な挑戦者はたくさんいます。

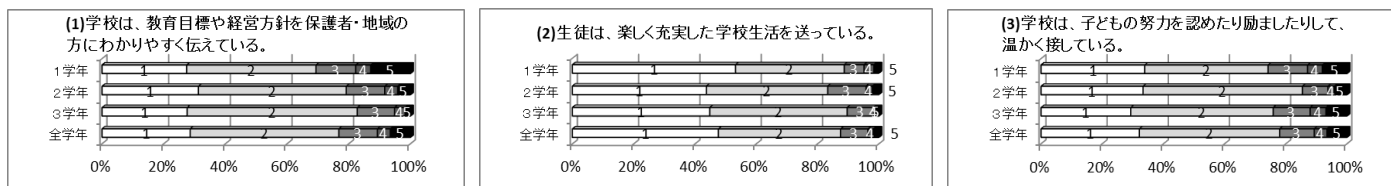
同一の価値観を持った世界の中でしか通じない常識は遠からず通用しなくなります。何しろ現在ある職業の多くが存在しなくなる社会が目の前に来ているのです。そうした中でのマウンティング(格付け)は意味を持たなくなるはずですが、何回も使わせていただいています。教育は人格の完成を目指す営みです。私たちが理想とする人格を自分自身の中に見いだすことができるかどうか、日々内省しながら生きたいものです。

平成30年度学校評価アンケート（最終まとめ）

回答率は96.0%

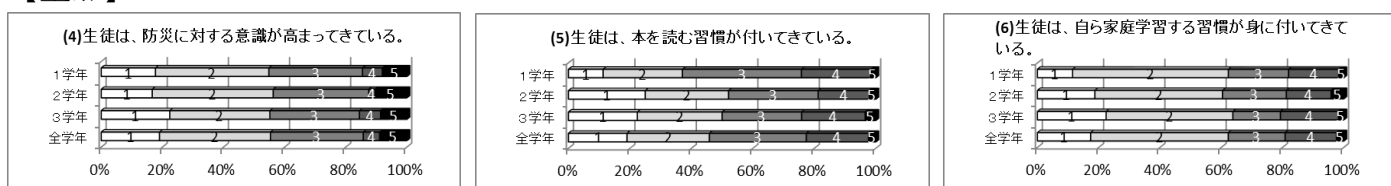
1：そう思う 2：ややそう思う 3：あまり思わない 4：思わない 5：よくわからない

【全体】



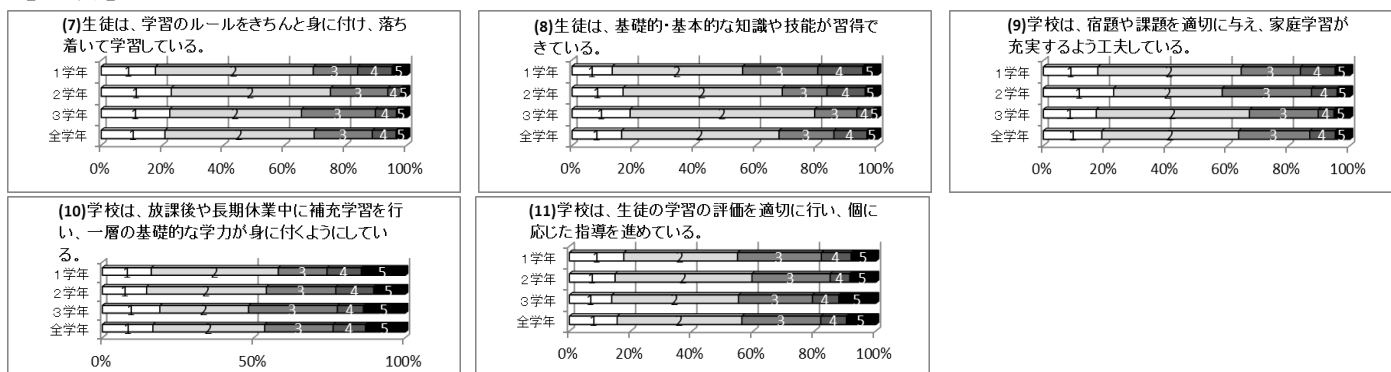
〔分析〕(1)の「教育目標や経営方針」については、全学年で見ると昨年度とほぼ同様、肯定的な回答は7割を超えています。学年が上がるにつれて理解度が高くなっています。(2)の「学校生活の充実」は、肯定的な回答が全学年で9割近くあり、例年同様でした。(14)(16)の回答結果にも表れているように生徒の学校生活への充実感は高くなっています。今後もQU調査を指導に活用していきます。(3)の「生徒の努力への受容・励まし」については、2学年の肯定的な回答が8割を超え、昨年度より高くなっています。教育活動を通した生徒の成長を適切に見取りながら指導をしていきます。

【重点】



〔分析〕(4)の「防災への意識の高まり」については、防災ジュニアスタッフの育成の成果を全校で共有し、防災意識の向上に努めました。今後も多角的に取り組んでいきます。(5)の「読書習慣」については、全学年では肯定的な回答が昨年度より下回り、5割未満でした。朝読書は継続し、図書館やミニライブラリーの活用を呼びかけていきます。教科の学習や特別活動においても図書を積極的に活用し、探究的な学びの姿勢を育成します。(6)の「家庭学習の習慣」については、昨年度同様、家庭学習ノートに取り組みしました。課題を自ら設定し、必要な学習の補充ができ、学力向上につながる指導を推進します。

【学習】



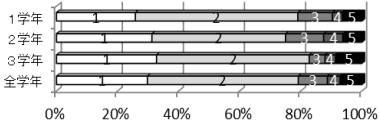
〔分析〕

(7)の「学習のルールの定着」では、学年により差はあるものの、肯定的な回答は7割程度で昨年度並でした。学力の向上は規律ある学習態度に裏付けされます。今後も周知徹底を図ります。(8)の「基礎的・基本的な知識・技能の充実」では、学年が上がるにつれて肯定的な回答の割合が高くなっています。「千川中スタンダード」の徹底と「振り返り」及びICT機器を活用した学習指導を推進しました。引き続き、授業改善に取り組みます。(9)の「宿題や課題の適切な与え方」では、学力の確実な定着をねらいとして今後も提示していきます。(10)の「補充学習」では、夏季休業中や放課後のチューターによる学習教室に加え、定期考査前の「質問教室」を「学習教室」と改め、基礎学力の定着を図りました。(11)の「適切な評価と個に応じた指導」では、習熟度別少人数指導を行いました。評価は今後も評価基準を明示し、適正な根拠の基に評価を行っていきます。

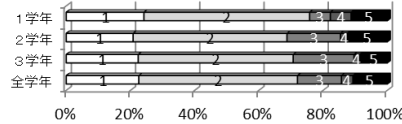
【道徳】

2月号－2

(12)生徒に、人を思いやる優しい気持ちが育ってきている。



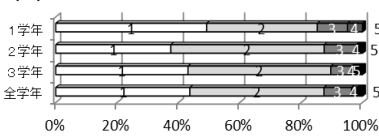
(13)学校は、子どもの人権を尊重する姿勢を持って教育活動に取り組んでいる。



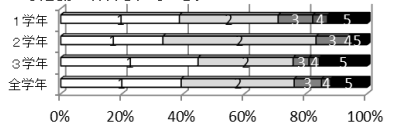
〔分析〕(12)の「思いやる気持ちの育成」については、肯定的な回答は昨年度並でした。来年度から実施される「道徳科」の授業において、生徒の道徳性を育み、成長を見取り、励ます指導を推進します。(13)の「人権教育」については、各学年ともに肯定的な回答が7割程度を示しています。人として最も大切なことである人権尊重の精神を全教育活動の基盤として取り組みます。

【特活】

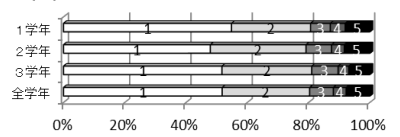
(14)生徒は、学校行事に生き生きと取り組んでいる。



(15)生徒会活動や委員会活動など、生徒の主体的な活動が保障されている。



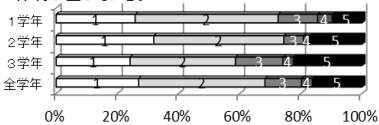
(16)部活動では、生徒が生き生きと活動している。



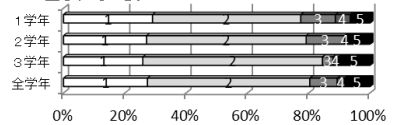
〔分析〕(14)の「学校行事」、(15)の「生徒会活動・委員会活動」については、昨年度同様、肯定的な回答が7割強～8割超を示しています。また(16)の「部活動」についても全学年ともに肯定的な回答が8割程度あり、興味・関心に応じた活動の機会が保障され、一人ひとりが個性の伸長に努めています。今後も生徒個人の特性を大切にした教育活動を推進します。

【生活指導】

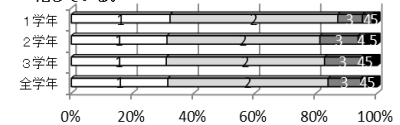
(17)学校は、問題行動等への対応を含め、生徒指導体制が整っている。



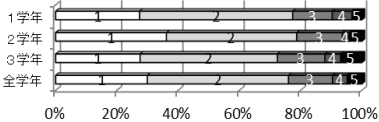
(18)学校では、基本的な生活習慣と規範意識の向上が図られている。



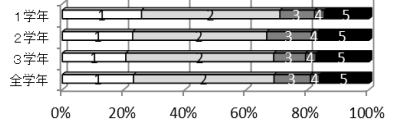
(19)生徒は、集団行動のきまりやマナーを守って生活している。



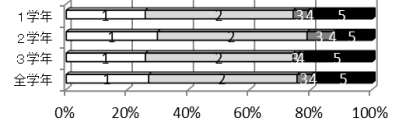
(20)学校は、保護者にとって連絡や相談がしやすい、適切な対応をしている。



(21)学校は、いじめを防止し、早期に発見するための活動を適切に行っている。



(22)学校では、安全計画に基づいて、安全指導が適切に行われている。

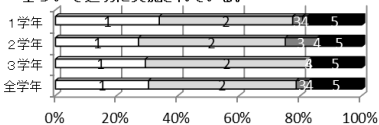


〔分析〕

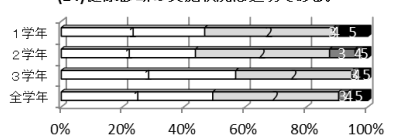
(17)の「問題行動への対応」(18)の「基本的な生活習慣と規範意識」(19)の「集団行動のきまりやマナー」では、肯定的な回答は昨年度並でした。引き続き思いやりや規範意識の醸成を大切にした指導を行います。(20)の「連絡・相談」では、教育相談に加え外部機関との連携を強化し、相談体制を充実させていきます。(21)の「いじめ防止」では、肯定的な回答が7割程度で昨年度を上回りました。「いじめは絶対許さない」という断固とした姿勢で指導を徹底します。(22)の「安全指導」では、肯定的な回答が8割近くを示しています。安全・安心な学校づくりに継続して取り組みます。

【保健】

(23)学校での保健行事や健康教育は、保健計画に基づいて適切に実施されている。

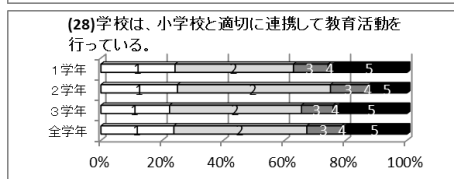
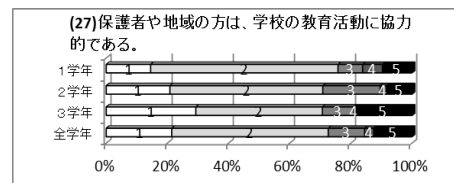
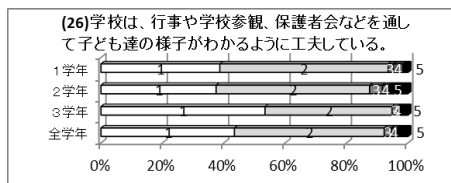
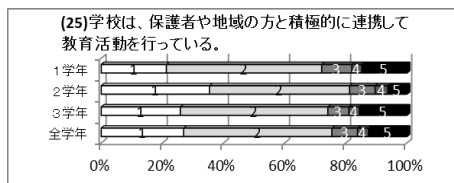


(24)健康診断の実施状況は適切である。



〔分析〕(23)の「保健行事・健康教育」については、肯定的な回答は7割を超え、昨年度同様でした。今年度はあらためて熱中症予防対策について校内ガイドラインを見直しました。環境と生徒の体調を管理した上での活動を一層徹底しました。学校保健委員会には例年以上に保護者の参加がありました。(24)の「健康診断の適切な実施」も合わせて、校医の助言を仰ぎながら生徒の健康管理に努めます。

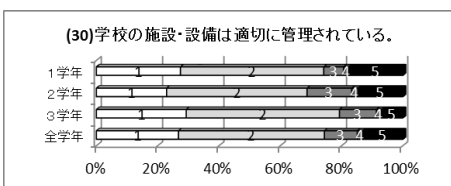
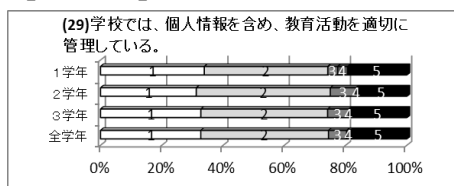
【保護者・地域連携】



【分析】

(25)の「保護者や地域の方との連携」、(27)の「保護者や地域の方の協力」については、保護者の皆様には協力員として、地域の方々には様々な協議会や学校行事においてご支援をいただき、教育活動の充実と発展につながりました。(26)の「教育活動の公開」については、肯定的な回答が9割程度と高い評価になりました。生徒たちの活動の成果がよりわかりやすく伝わるよう一層の工夫改善に努めます。(28)の「小学校との連携」については、小学校6年生を対象に部活動体験を実施しました。また、同じブロックの中で共通の視点に立ちながら相互に授業研究を行い、指導の改善に活かしました。今後も様々な形で、連携を深めていきます。

【その他】



【分析】

(29)の「個人情報・教育活動の適切な管理」については、人権に配慮し、厳重な管理を徹底し、信頼される教育活動を推進します。(30)の「施設・設備の管理」については、生徒の安全を第一に、環境整備や改善に努めていきます。

生徒の活躍

○第10回東京駅伝 2月3日(日)東京都各区市対抗で、味の素スタジアム内アミノバイタルフィールドにて開催されました。

豊島区は、男子35位、 女子24位

【本校からの代表チーム参加者】

2年 (男子)****、**** (女子)****、****

○吹奏楽部 第52回東京都中学校アンサンブルコンテスト 管楽8重奏 銅賞

2年:****、****、****、****、****、****、****

○バドミントン部 豊島区中学校ジュニア大会 ダブルス 優勝 2年 ****・****

ダブルス 準優勝 2年 ****・****

○東京都防災標語コンクール優秀作品 1年 **** 「協力は 多くの命を すくうもと」